

# 企画 7 | 拓殖ボランティアチームによる石巻市をはじめとした被災地復興支援活動

## 実施期間・日程

平成23年4月15日～12月15日

## 実施内容

東日本大震災発生後、拓殖大学国際学部の一部の学生が立ち上がり被災地復興支援ボランティア活動を目的とした拓殖ボランティアチーム(以下TVT)を発足した。

これまでの主な活動は「3度の派遣活動」「勉強会」「埼玉県立越生高校でのワークショップ実施」である。派遣活動実施におけるTVTは「学生への参加ハードルを下げる」という組織としての役割であり、派遣企画から派遣終了後の報告会まで責任を持って実行してきた。その他にも、この学生チャレンジ企画への応募や、社会人基礎力育成グランプリへの参加もTVTの活動の一部と言える。

今回は、主な活動についての報告をする。

これまでに「3度の派遣活動」を実施してきた。1次隊は4月30日～5月4日、2次隊は7月7日～7月10日、3次隊は10月7日～10月10日で活動してきた。3度ともに宮城県石巻市内での活動であった。派遣隊ごとに現地の受け入れ先のNGOや活動内容が異なっていたが、どれもマンパワーを必要とする活動であった。どの隊でも共通するのは、瓦礫撤去、ヘドロ除去などの力作業で、隊によっては現地でのニーズに柔軟に対応しているような作業を行うこともあった。

派遣隊実施にあたってはTVT運営委員会で企画を行い、学生に呼び掛け、決定した後、事前研修を行った。派遣終了後は学内での活動報告会を実施した。

「勉強会」は2つの場面で実施した。1つは授業内で、1次隊派遣活動実施後、国際学部の新田目夏実教授の「開発社会学」

の授業にTVTメンバーが参加させていただいた。内容としては、各グループに派遣隊参加者を割り振り体験談を報告させ、社会問題を見つめ直すものだった。

もう1つはTVT運営委員会内でのものである。「普通のボランティア」と「災害ボランティア」の違いをテーマとし、「なぜ災害ボランティアをするのか」について、週に1度議論している。同時にTVTとしての活動の在り方についても議論している。

次に11月16日に実施した「埼玉県立越生高校での120人を対象にしたワークショップ実施」を今年最後の大きな活動として報告したい。

「高校生に被災地に関心を持ってもらうこと」を目的とした内容を実施した。高校生に関心を持ってもらえるような内容を作るのが困難だった。中身としては、まずTVTの活動報告、次にグループ毎に体験談報告を行い、写真を見せてクイズを実施、最後に「現地で必要とされているもの」についてのディスカッションを行った。グループ毎に分かれた体験談の報告のあたりから高校生の関心がTVT側に向き始め、ワークショップは3時間という長い時間であったがあっという間に過ぎてしまった。

このように約9カ月間、「被災地復興」という目的に一步踏み出した活動をしてきた。今後も目的に向かってあらゆる活動をしていきたいと考えている。

団体の名称

拓殖ボランティアチーム(TVT)

代表者氏名・学部学科名等

田部 裕大  
国際学部国際学科 3年

## 成果

TVTのこれまでの活動の成果は、3度の派遣隊活動、勉強会、高校でのワークショップ、どれをとっても挙げられる。

まずは派遣隊活動について挙げると、現地の方々が笑顔になったことである。瓦礫やヘドロを撤去した所が活動前と比べて、地域が明らかにきれいになったこと、また継続して活動することで地域の方々との信頼関係を構築することができたこと、そして学生が自発的に行動できたことである。特に最後の学生が自発的に行動できたことについては、被災地に行きたくても勇気が出ない友人たちが活動に自らの意思で参加し、次の活動には大きく関わっているという事実があることは大きな成果だと言える。この繰り返しが今後もより大きな活動に繋がっていくのではないかと考える。

2つ目の勉強会での成果について。授業内で勉強会を行うことにより、受講者の意識が変わり、実際に派遣活動に参加者が増えたこと。メンバー1人1人の思いや疑問点を共有することで、チームで活動することにおいて良い刺激になるほか、今後の活動にも活動の反省を生かすことができる。TVTで活動するメリット・デメリットについても話し合い、組織の体制を常に良いものとする良い機会にもなっている。

3つ目は高校でのワークショップについてである。国際学部の長坂寿久教授から越生高校進路指導部の加藤先生を紹介され、「TVTの活動を越生高校の生徒に伝えてほしい」という

依頼を受けたことから始まった。話し合いを進める中、やるからには活動報告だけでなく、有意義な物を作りたいということで、1ヶ月を準備期間とし、TVT独自のワークショップを作ることに決まった。実際に高校でワークショップを行った効果としては、高校生から「震災は他人事だったけど、関心を向けられるようになった」「TVTのように派遣体制が整っていればボランティアに行きたい」などの声を多く聞くことができた。

このようにTVTの活動が被災地域やその人々に影響したこと、そして被災地から遠く離れている人々へも大きく影響したことが、TVTの活動を通しての大きな成果であると言える。



民家にある瓦礫やゴミの運び出し作業  
大量の瓦礫を分別し運び出さないとならないため人手不足が深刻な問題となっている



1次隊派遣(4/30～5/4)メンバー



側溝のヘドロ除去作業 感染症などを防ぐために早急な除去が必要

反省点・感想及び意見

今までの活動の反省すべき点は組織体制がまだ十分に整っていないことである。

今後も継続的に活動していくためには、組織の体制を整えなければならない。これまでの私たちの活動は組織で動くためのマニュアルや役職があるわけではなく、活動できるメンバーが主体的に動いてきたからこそ実施できたのであった。

しかし、今後も派遣活動だけでなく、学外での発表会や、その他の新たな活動を実施するにあたっては、仕事を割り振らなければ1人当たりの負担が大きくなってしまふ。私たちはTVTの活動によって学生の本分である学業に悪影響があつてはならないと強く考える。そのためにも早い段階から組織体制を整え、あらゆる活動に効率よく且つ柔軟的に取り組めるように努力しなければならない。また、1人1人が役割を持つことにより、チームの一員としての責任感を持つこととなり、個人でなくチームで活動することの結束力をつけることができる。

災害派遣ボランティア活動を実施してから、メンバーの顔つきが変わつた。ボランティア活動をするきっかけは1人1

人違つたのは事実だ。参加理由として、「被災地をこの目で見たい」「自分に何かできることをしたい」「被災地に行つて何か感じて今後の活動について考えたい」という声が多かつた。しかし、現状を自分の目で確認し、実際に活動し、被災地域の人々と関わりあいを持つことによって、メンバーの気持ちが「～したい」から「～しなければならない」へと変わったのだ。私たちはその気持ちの変化が、これまで活動に繋がつたと考える。また、同じ気持ちを持った仲間と目的に向かつて活動することにとても喜びを感じている。

私たちの活動は拓殖大学の協力を得てこそのものである。

しかし、大学側には資金面の援助だけでなく、学生への被災地の情報提供や、ボランティア活動をしやすい仕組みを作るために協力をお願いしたい。そうすれば、より多くの学生が3.11という大災害の実態を理解することができるし、拓殖大学の教育方針の1つである「人間社会が直面する課題の解決に率先して立ち向かう開拓精神にあふれ、かつ、そのために必要な知力と体力を備えた実践的な人材の育成」にも繋がるとは思はないか、と提言したい。

今後の計画・展望

現段階で計画中・準備中のものとしては、1つはTVTの組織としての体制づくり、次にあらゆる活動に対応できる準備をすることである。次の3月11日には再度派遣活動を実施する予定もある。

まず、TVTの体制の整備に関しては、現在、週に1度のペースで勉強会を実施している。勉強会では災害ボランティア活動に対する個人個人の思いの共有を目的としている。また現地でボランティア活動をして得た情報をもとに、ボランティアの在り方についても議論している。この勉強会が今後のTVTの活動に大きな影響を与えている。また、石巻市以外の災害派遣ボランティアや、今後の災害ボランティアのニーズに柔軟に応えられる体制を整え、備えていく方針である。

次に、3月11日の派遣活動については、震災発生から1年経つた現地に訪れることにより、現状の再認識をすること、また現地でニーズに応える活動をするのが目的である。計画の1つとして、岩手県九戸市野田村にて3月11日に311本の

桜の木を植えるプロジェクトのお手伝いとして派遣活動を行う予定である。

現段階では上記の活動を実施する予定であるが、来年度からは新1年生が入学するという事で、新入生にも震災とTVTの情報を伝えたい。それによって、震災に対する学生の関心を向上させ、被災地の復興に繋げていきたい。また個人が自主的にボランティア活動をするように啓蒙したい。

私たちの活動はどれをとっても「被災地復興」を目的とする活動であり、その方法は多種多様である。私たちができることを私たちがなりに行うことで、微力でも被災地復興のために貢献できれば良いと考えている。被災地域ではまだまだマンパワーが必要とされている。TVTとして派遣活動をするのはもちろん、私たちの活動を発信し知ってもらうことによつて、他の学生たちが刺激され実際に現地に足を運んでもらうよう、被災地復興に協力したいと考えている。

支出報告書

支出総額	973,102円
給付額	300,000円

[内訳]

品名	単価	個数	小計
(単位円)			
＜派遣活動＞			
飲食料費			85,750
消耗・生活用品費			57,075
医療品費			25,370
装備品費			57,867
ボランティア保険加入費			56,000
交通費			681,340
※交通費の内487,000円については教員による援助			
＜その他＞			
テント修理			9,700
			合計 973,102円



二次隊派遣(7/7~7/10)メンバー



三次隊派遣(10/7~10/10)メンバー